

## 第3回 LCIF 国際委員エリア・MD コーディネーター会議要録

日 時：2017年10月19日（木） 13：00～17：00

場 所：キャッスルプラザ名古屋

出席者：

LCIF 国際理事	L.鈴木誓男
LCIF エリアコーディネーター（東日本担当）	L.大石 誠
LCIF エリアコーディネーター（西日本担当）	L.榎本舜治
330 複合地区 LCIF コーディネーター	L.安達成功
331 複合地区 LCIF コーディネーター	L.小野寺眞悟
332 複合地区 LCIF コーディネーター	L.渡邊 豊
333 複合地区 LCIF コーディネーター	L.中嶋正昭
334 複合地区 LCIF コーディネーター	L.加藤助太郎
335 複合地区 LCIF コーディネーター	L.北畑英樹
336 複合地区 LCIF コーディネーター	L.橋本充好
337 複合地区 LCIF コーディネーター	L.増田敏雄
LCIF 日本事務所事務局員	平岩ひろみ、堀 郁世

議事進行： LCIF エリアコーディネーター L.榎本舜治

議事：

### 1. 鈴木 LCIF 国際理事からの挨拶及び報告

挨拶に続き、本会議への出席、四半期の尽力に対する謝辞。

- ① ケニアへの視察予定の報告：8 複合地区で拠出した 1,500 万円を以てケニアに学校を建設。学校での倫理教育を通じて、現地で起きている犯罪を減少させる狙いもある。貨幣価値が大きく違い、発展途上国の子供たちへの支援は有効かつ必要。
- ② 来年度(ラスベガス国際大会)から新たなキャンペーンが施行される。来年1月の LCIF 理事会にて、詳細が最終的に決定される予定。LCIF 設立 50 周年を迎えるという理由、また交付金原資を補うという目的がある。キャンペーンリーダーに山田實紘元国際会長、副リーダーにフランク・ムーア元国際会長が就任した。3 年間の目標が 3 億ドル。この大きな目標達成のため、今後、当キャンペーンにおける日本国内の組織づくりを考えていきたい。
- ③ 交付金事業体制の変更について
  - 1) レオクラブに対しての交付金ができる。
  - 2) 来年度から「クラブ・シェアリング」が始まる。クラブが年間 5,000 ドル以上寄付した場合、その 15%の額をクラブ（または地区）がアクティビティの基金として受け

取る権利ができる。諸処の条件、検討課題があるが、寄付金の一部還元という新システムによって、LCIF 寄付に対する意欲向上が期待される。

- ④ 日本の年間寄付額目標 1,000 万ドルを達成するためには、これまで寄付をしていない人に対するアプローチ、特に LCIF に協力する意義の訴求が重要。年間 5,000 万ドル集められない現状の中、3 年間で 3 億ドルを集める（来年度から始まる新キャンペーンの目標）ことはなかなか難しく、寄付が少ない地域からの協力が不可欠。目標達成に向けて、米国を筆頭に各会則地域が協力し合って進める必要がある。
- ⑤ スペシャル・オリンピック日本 2018 夏季ナショナルゲーム・愛知への支援の願いとして、有森裕子大会会長から託された寄付申込書と、愛知県刈谷市の『ふるさと寄附金』のちらしを配布。LCIF がパートナーシップを締結したこの大会に、多くの方にご協力いただけるよう呼びかけをお願いしたい。
- ⑥ 現在検討している案として、  
複合地区年次大会に各複合地区のブースを設け、各地の特産品等を販売する、ライオンズ市場（オンラインショップ）の開設、などで活気を呼ぶと同時に利益を生み出す新しい取り組みをしてはどうか？

## 2. 大石エリアコーディネーターによる挨拶および活動報告

大石 AC より、第一四半期の MDC の尽力に対する謝辞、および 331-A 地区、331-C 地区で開催された LCIF セミナーの参加報告があった。今期からクラブコーディネーター（以下 CC）の配置が始まったが、これまでセミナーに参加したことのなかった層の参加もあり、今後の活動において大変有意義であった。LCIF が各クラブに対するアプローチを起こしたことは画期的であり、うまく機能し始めれば、将来的には一般の会員からもより LCIF への理解と協力を得られることになることと期待している。またカリキュラムにディスカッションがあったが、一方通行ではないこういったカリキュラムは良かったと思う。今後、他地区においても、今後セミナー開催の際は、ぜひ CC やクラブの主要メンバーを動員し、LCIF への理解を深めてもらうようにしてほしい。

上記報告を受け、榎本 AC より、CC がクラブで活躍できるよう、積極的に CC 研修会の開催を呼びかけ、情報を伝達して欲しいとのコメントあり。

## 3. MD コーディネーターによる活動報告

- 増田 337MDC：MD337 では 1 地区を除きガバナーが地区コーディネーター（以下 DC）を兼任している。ガバナー公式訪問にて、CC の配置を呼びかけてもらうようガバナーに依頼した上で、今後 CC 研修会を計画していきたい。九州北部豪雨災害に対する大災害交付金に関する報告あり。337-A 地区に災害交付金 71%、337-B 地区に 28% で配分。使い道は地区にて判断する。不老 PID に指導いただいている。9 月に B 地区

にて別の水害（大分県佐伯市）が発生したが、同一地区であるため新たな申請はせず、すでにある交付金および義援金から使用していく予定。

- 橋本 336MDC：7月21日にB地区キャビネット会議に参加し、MDおよび日本全体の目標を発表した。A、C、D地区においては前期の3役スクールにてLCIFについて説明し、クラブの主要メンバーに直接アプローチした。8月23日に各DCを招集し、目標数値を説明。次回1月開催時に進捗を確認する予定。10月8日は約300人のCCを招集し、GSTと関連付けて話をした。なお、GSTについては新年度が始まったころにやっと地区の役員が決まった状態で、クラブ単位までまだ浸透していない。
- 北畑 335MDC：DCと地区委員長あてに手紙で文書を送り、クラブ参加率100%を目標にしていること、加えてガバナーに公式訪問の際でのLCIFのアピールを依頼するようお願いした。D地区ではガバナーが特に積極的であり、地区全員100ドル以上の寄付を目標に掲げている。C地区では前年度のDCが継続しており、いいスタートを切っている。京都東LCがクラブ全員MJF寄付。B地区は今期ガバナーがLCIFへの関与・協力を主な目標の一つにしている。各CC、RC、ZC集め研修会を開いた。大阪南LCが100MJFクラブ達成。A地区はガバナーが体調不良のため、代理でセミナーに出席する予定。ガバナーから発言いただく（＝LCIFへの協力要請）のが最も説得力があり年代問わず全ての会員に効果的と思う。目標達成に期待。
- 加藤 334MDC：前年度比5%アップ、クラブ参加率100%を目標に掲げて進めている。今期は出遅れたが最終的には目標達成できると期待している。地区セミナーはCCを対象とし、計7回実施。講師を経験することでLCIFの知識を深め、将来的に地区のリーダー的存在となってもらうことを期待して、セミナー講師は各LCIF委員長に依頼している。若手リーダー育成セミナーを設けている地区もあり、そこでもLCIF研修の時間をいただいている。交付金申請数が多く（特にA地区）、実施時期に間に合わないということが起きている。申請件数がゼロの地区もあるので、申請件数の上限は地区単位ではなくMD単位としてはどうかと鈴木理事に提案があった。また、交付金の申請用紙の書式をパターン化したものをMD334内で作成・使用したい。LCIFの最新情報をクラブに配信することを計画中。加藤MDCが原稿を作成し、DCを通じてクラブ単位に流してもらう予定。
- 中嶋 333MDC：第一回のDC会議で昨年度実績や今年度目標を共有した。\$20、\$50、\$100寄付のうち\$20が大半を占めているため、一人100ドルの寄付の呼びかけを各ガバナーに依頼した。ガバナーから地区委員長に情報提供がされていると思っていたが、委員長からLCIF日本事務所の方に直接質問が入るという現状から、ガバナーに資料を渡すだけでなく、3役やCCの研修会を開催し正確な情報を伝えていく必要性を感じている。議長に相談の上、2月までに準地区単位での研修会開催を検討する。
- 渡邊 332MDC：2018～2020年度年度の国際理事が332MDから立候補するので、皆様の協力をお願いしたい。例年の実績を上回るためには、これまで一度もMJF寄付をし

ていない方からの協力が必須であるとガバナー協議会にて強調。現時点でその結果がまだ出ていない。D 地区は一人当たり寄付額が好調だが、地区によって LCIF に対する意識が弱く、それが数字に出ている。ガバナーに協力要請はしているが、前年度対比マイナスの地区が多く、今後さらなる理解と協力を求めていきたい。

榎本 AC より、DC 会議を再度開催し、情報を共有するのが良いとのコメントあり。

- 小野寺 331MDC：地区のセミナーについては、大石 AC からの最初の説明があった通り。主役であるクラブからの理解と主体性が得られなければ寄付も難しいと訴え、昨年春に当時のガバナー、DC、幹事予定者に CC 配置を要請した。A 地区はガバナー自ら人事を行い高い配置率。B 地区は半分程、C 地区はいまひとつで、セミナーには 3 役の出席が多かった。DC 会議は今期 2 回開催しており、第 3 回を 11 月に予定。また LCIF 寄付の明確な目的を示すべく、331MD では支援の柱をはしかイニシアチブ一本に絞っている。11 月以降どれだけ伸びるかが鍵を握っている。
- 安達 330MDC：A 地区 LCIF 委員長に伊賀 L が就任した昨年度、近年奮わなかった A 地区の寄付実績が大幅に改善され、委員長の意欲の強さが結果に大きく影響すると実感している。前年度の春頃、意欲のある人を LCIF 委員長に選任するよう次期ガバナーに依頼した結果、3 地区とも熱意のある委員長に就任していただき、実績にもそれが表れている。3 か月経過時点の実績としては一人当たり寄付額が 57.4 ドル、参加率も 51% と好調であり、CC 配置やセミナー開催の効果が出ているのでは。B 地区は全国第二位。今期目標の 110 万ドルを達成したい。3 地区において、クラブ会長、幹事、CC を招集し、セミナーを開催した。LCIF 協力者の見える化を 2 点要請した。
  - ① 年次大会で配布されるプログラムに MJF 寄付者の氏名を掲載
  - ② MJF ピンをガバナー公式訪問の際にガバナーからピンを直接贈呈このような形で協力者を称えていきたい。いかに理解者、協力者を増やすかが大きなポイントになると思う。

上記報告を受け、鈴木理事より 1,000 ドル寄付者を称え、寄付を継続してもらうことが重要とのコメントあり。

ライオン誌のオンライン移行にあたり、日本ライオンズからの情報化を一本化していく。日本ライオンズで発行している書籍『LCIF 早分かり』は、著作権が LCIF 日本事務所に移ることが決定し、今後こちらで編集していく。

情報の更新が即座にできるデジタル版に移行を検討している。(榎本 AC)

#### 4. 16-17 年度 日本の寄付実績報告

9 月末時点の日本全体の寄付実績について、表・グラフ等の配布資料を用いて榎本 AC より報告・解説された。各地区の寄付実績の他、毎月の寄付額の推移、クラブ参加率、一人当たり寄付額、国別・会則別の寄付状況等の振り返りが行われた。寄付総額は昨年とほぼ同額だ

が、20の準地区において前年度対比マイナスであることについて言及。また、リーダーシップを発揮してもらいたいとして、地区のリーダーに寄付の呼びかけを行うよう勧めた。複合地区・準地区ごとの目標額と進捗状況を確認、目標達成のためにはMJF（\$1,000以上）の寄付が重要であることを再認識してほしい。寄付の大半が年度の前半に行われることから、12月までの頑張りに期待したい。

#### 5. MDコーディネーターの活動予定および目標の発表

- 安達 330MDC：前半のスタートダッシュが良い当地区だが、後半334MDにいつも抜かされる。全国3位を目指したい。CCや各委員会をサポートしつつ、目標の110万ドル達成にむけて頑張りたい。
- 小野寺 331MDC：毎年4～6月に寄付が急激に落ち込む。アワード交付のタイミングに問題があるのでは。11月のDC会議で対策を立てて頑張っていきたい。
- 渡邊 332MDC：準地区のガバナーの認識がそのまま数字に表れているのが現状。次期MDCは最も数字の低いから選出した方がむしろ意欲向上につながるのではないか。
- 中嶋 333MDC：毎年10～11月が寄付のピークであるため、期待している。研修会を開き各地区の状況を報告し合いたい。20ドル寄付もしていないクラブもあるため、寄付額ゼロクラブをなくしていきたい。
- 加藤 334MDC：今年度のスタートは出遅れているが、今後無言の圧力をかけていき、目標の達成を期待している。
- 北畑 335MDC：330MDに2位の座を奪われているので、抜き返せるよう頑張りたい。日本全体の15%を目標としている。バースデーMJFの呼びかけを続けているので、今後の寄付も期待している。
- 橋本 336MDC：出足が悪い地区が多いので、11月の第二回キャビネット会議にて、文章を作成しDCに更なる協力を依頼したい。
- 増田 337MDC：ゼロクラブが全体の30%程ある。LCIFへの寄付の意義を伝えていくことが重要と思う。

#### 6. セミナー研修について

- 榎本 ACより、自身が作成したセミナー資料（パワーポイント）を基に、プレゼンテーションの流れ、よくある質問、また寄付の方法や新しい交付金プログラムの概要等について説明があった。このPPTデータは希望するMDCにお譲りするので、正しい理解と効果的なセミナー運営に有効活用してほしい。

#### 7. 交付金について

交付金について鈴木理事より説明あり。

- シェアリング・プログラムについては、まだ未確定な部分も多く公表には注意が必要。

- 交付金の申請、使用、報告において不正のないように注意してほしい。最終報告書では、LCIFからの交付金だけでなく、マッチング資金分の領収書も必須。
- 交付金の企画～報告まで、一貫してMDCがサポートするというパイロット・プログラムが日本で始まっている。寄付を集める役割と交付金に対するスペシャリストの設置が必要ではないかと考えている。

## 8. その他

### Q&A

- 「GSTの活動費についてLCIFが負担するのか？」 → 「活動費はできません。」（鈴木理事）
- 「次期MDCの選出について。」 → 「過去の役職や資格については問わない。LCIFに対し理解と情熱のある人を選出したい。」（鈴木理事、榎本AC）

## 9. 次回会議日程

第4回MDC会議	1月26日（金）
第5回MDC会議	5月16日（水）
現・次期MDC引継ぎ会	5月17日（木）

16:50に大石ACによる挨拶にて閉会。

以上